

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

熊本県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

熊本県では、45市町村が被害防止計画を策定している。
 被害防止計画の対象鳥獣としては、令和3年度の農作物被害額のうち約4割を占める「イノシシ」、「シカ」を全市町村が対象鳥獣に位置づけており、他の主な獣類としては、「サル」を宇城・上益城・阿蘇・球磨地域等の山間部の市町村が中心に対象鳥獣に位置づけている。鳥類では、被害の大きい「カラス」、「ヒヨドリ」を中心に対象鳥獣として位置づけており、近年県内での被害が増加している「カモ」については、熊本・宇城・玉名・八代地域の干拓地のある地域の市町村を中心に、対象鳥獣に位置づけている。
 被害防止対策としては、有害捕獲、被害防除を中心に、生息環境管理を併せて総合的に実施する計画となっており、必要に応じて専門家を関係機関に派遣するなど技術的な助言を受けながら対策に取り組む計画としている。
 広域被害防止計画の策定については、平成23年3月末では複数市町村を範囲とした計画を作成している地域はなかったが、現時点で10市町が広域計画に変更(計3計画)し、広域的な被害対策を実施することとしている。

2 事業効果の発現状況

事業実施地域では、地域協議会を中心に被害防止対策の実施体制を整備・強化するとともに、研修会や検討会の実施により、被害対策技術の習得による人材育成に努めている。特に捕獲の担い手については、高齢化や担い手不足を解消するため、免許取得講習会の補助を行うなど積極的な推進を行った結果、近年は、狩猟免許合格者は増加している状況である。
 また、地域協議会が本事業によりわなを導入するとともに、市町村や県の捕獲報奨金等の補助を活用し積極的な捕獲を推進した結果、県全体の有害捕獲頭数については、増加傾向である。
 本事業により侵入防止柵の設置や追い払い活動を実施した地域においては、鳥獣の侵入防止効果が発現され被害が減少している。

3 被害防止計画の目標達成状況

熊本県全体の令和3年度農作物被害額は、令和2年度より約1,000万円(2%)減少し、5.37億円となった。前年度よりイノシシ、シカは減となったが、カモの被害額が増となっている。
 今回の評価報告対象の29市町村(7市17町5村)では、被害防止計画目標の達成率については、19市町村(5市12町2村)は目標を達成し、一定の成果があがっている。一方で、10市町村(2市5町3村)で目標達成率が70%未満と低調という報告となった。
 今後とも、事業実施市町村と一層連携を強化し、捕獲・防除・生息環境管理に係るソフト・ハードの取り組みを総合的に実施していくとともに、農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策を積極的に取り入れるなど、有効かつ効果的な総合対策を実施していく。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
熊本市農畜水産物有害鳥獣対策協議会	熊本市	R2～R4	イノシシ	有害捕獲	箱わな導入 30基	熊本市農畜水産物有害鳥獣対策協議会	R2～R4	100%	・わなによるイノシシの捕獲 (R2→1,124頭、R3→965頭、R4→1,404頭)	39,000	29,556	423.9%	19	8.7	364.1%	多くの獣種において、被害金額・被害面積ともに目標値を大きく達成している状況である。 特に、イノシシにおいては、被害金額の達成率が顕著であり、電気柵の設置やわなの増設などの取り組みによるものと考えられる。 一方、カモ・アナグマにおいては、目標達成ができていない。 アナグマは、農地への侵入防止柵の設置、捕獲従事者の育成による捕獲体制の強化を行う。 カモは、銃器による駆除や捕獲に係る取り組みも併せ、総合的な対策を進めていきたい。 熊本県東央広域本部農林部農業普及・振興課 主幹 金島佳典	多くの獣種、特にイノシシについては、侵入防止柵の整備も進み、対策の効果があり、被害面積・被害額ともに目標以下に抑えることができている。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む、被害(ほぼ)を実現した地域もあるので、参考にしていきたい。	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。
			カラス	有害捕獲	くくりわな導入 270基				・イノシシによる被害額 (R2→38,806千円、R3→36,618千円、R4→29,556千円)	14,000	10,331	219.4%	13	2.5	400.0%			
			ヒヨドリ	有害捕獲	電気止めさし器導入 1式				・侵入防止柵(電気柵、WM柵)の整備に取り組んだことにより、イノシシによる被害額が低減した。(R4年度はR2年度に比べて、24%減少)	3,500	2,988	146.1%	1	0.6	200.0%			
			ハト	有害捕獲	マーキングスプレー導入 64本				・イノシシによる被害額 (R2→38,806千円、R3→36,618千円、R4→29,556千円)	200	0	231.6%	1	0	266.7%			
			カモ	有害捕獲	狩猟免許取得助成 2名				・侵入防止柵(電気柵、WM柵)の整備に取り組んだことにより、イノシシによる被害額が低減した。(R4年度はR2年度に比べて、24%減少)	2,000	2,933	-10.0%	1	4.5	-3400.0%			
			タヌキ	侵入防止柵	電気柵の設置 L=99,859m				また、緊急捕獲活動支援事業を侵入防止柵の整備と一体的に取り組んだことで、R4年度のイノシシの有害捕獲頭数はR2年度と比べて、25%増加した。	3,000	1,657	192.4%	0.5	0.2	175.0%			
			アナグマ	侵入防止柵	WM柵の設置 L=17,529m					3,000	11,635	-285.5%	0.5	1.5	-100.0%			
			ニホンジカ	緊急捕獲	イノシシ3,881頭					0	0	100.0%	0	0	100.0%			
			アライグマ	緊急捕獲	シカ234頭					0	0	100.0%	0	0	100.0%			
				緊急捕獲	アナグマ238頭					計64,700	計59,100	計147.5%	計36.0	計18.0	計291.5%			
				緊急捕獲	タヌキ157頭													
				緊急捕獲	カラス146羽													
	緊急捕獲	ヒヨドリ2,992羽																
	緊急捕獲	カモ1,136羽																
	緊急捕獲	バン23羽																

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
美里町鳥獣被害防止対策協議会	美里町	R2～R4	イノシシ シカ サル アナグマ カラス アライグマ	箱罠導入 囲い罠導入 追払い活動 放任果樹の除去 WM柵設置 電気柵設置 緊急捕獲(イノシシ成獣) 緊急捕獲(イノシシ幼獣) 緊急捕獲(シカ) 緊急捕獲(サル) 緊急捕獲(アナグマ)	60基 3基 84回 3箇所 L=5,080m L=1,300m 1,256頭 200頭 1,390頭 19頭 67頭	美里町鳥獣被害防止対策協議会	R4	侵入防止柵 100%	・囲い罠によるイノシシの捕獲数 R2:4頭 R3:5頭 R4:14頭 ・囲い罠によるシカの捕獲数 R2:0頭 R3:4頭 R4:9頭 ・侵入防護柵の設置による水稻の被害は減少し、有害獣の捕獲頭数は増加した。	4,050	1,805	416%	4.1	1.8	434.3%	対象鳥獣による農作物への被害防止対策や緊急捕獲対策事業及び町単独事業等の被害防止計画の目標を達成するための取組を行った。特に、整備事業により耕作農地への被害を防除できたことが大きかったと考える。 しかし、鳥類については対策が不十分な部分があるため、対策の方法を考えていく必要がある。今後も被害防止対策を進めて被害が拡大しないように取り組み、特定外来生物にも対応が出来るように進めていく。	イノシシやシカといった有害獣は捕獲数の増加や防護柵の整備を進めたことに伴い被害が減少しているため、今後は被害が増加しているカラスなどの鳥類での対策も必要になると考える。 また、捕獲従事者の負担が減ることを考え、ICT機器を導入するなどの対応を期待したい。 美里町農業委員会事務局 上野祐樹	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 美里町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
御船町鳥獣被害防止対策協議会	御船町	R2～R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵 侵入防止柵 緊急捕獲 緊急捕獲	狩猟免許取得講習会助成 32名 捕獲個体処理研修 1回 無線機購入 3台 電気柵設置 L=44,695m WM柵設置 L=3,267m イノシシ 898頭 ニホンジカ 162頭 ニホンザル 2頭	御船町鳥獣被害防止対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・電柵設置 R2 設置地区数 22地区 設置延長 13,013m R3 設置地区数 37地区 設置延長 21,781m R4 設置地区数 23地区 設置延長 13,169m 狩猟免許取得助成による狩猟者の育成 R2:20名 R3:7名 R4:5名	2,746	2,157	292.5%	5.62	0.4	941.9%	電柵の設置を継続的に続けてきたことで、被害の減少及び抑止について一定の効果があつていると思われる。 今後は、電柵に加え、ワイヤーメッシュ柵の導入を図り、被害の軽減に繋げていく。 捕獲者の確保・育成についても、免許取得助成及び研修会の開催を継続して取り組んで行く。	被害金額、面積とも目標を達成しており、対策の効果が見られていると考えられる。 防護柵の設置箇所数が多いため、管理作業が大変だと思われるが、今後も引き続き管理を行っていただき、さらなる被害防止に取り組んでほしい。 (熊本県県央広域本部長 益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 御船町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
									被害金額			被害面積						
									目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
益城町鳥獣被害防止対策協議会	益城町	R2～R4	イノシシ ニホンジカ アナグマ ハト カラス類	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ626頭 シカ219頭 カラス類118羽	益城町鳥獣被害防止対策協議会			銃・罠によるイノシシの捕獲 R2:206頭 R3:171頭 R4:249頭 銃・罠によるシカの捕獲 R2:62頭 R3:78頭 R4:79頭 狩猟免許取得助成による狩猟者の育成 第1種銃猟 R4:2人 町単費による電柵設置補助により農作物被害の減少を図る。 R2:19箇所 R3:42箇所 R4:34箇所	947 700 1,600 661 計3,908	1770 224 178 0 計2,172	-102.7% 258.7% 307.3% 333.6% 計203.6%	1.02 3.5 0.32 4.67 計9.51	0.82 0.29 0.07 0 計1.18	146.5% 314.0% 292.3% 333.5% 計305.2%	令和2年、3年度と対象鳥獣の被害金額および被害金額ともに減少傾向であったが、令和4年度になるとイノシシ被害が増加となった。今後は、より一層対策を強化し、被害減少に努めなければならない。	イノシシの被害金額は増加しているものの、令和2年度と3年度の被害額は現状を下回っており、令和4年度は一時的なものと考えられる。アナグマの被害面積が増加しており、現在捕獲もしない。電気柵の下を潜られるなど、アナグマの被害をそのままにしておくと、イノシシ被害が発生する可能性がある。今後は、アナグマ対策について検討が必要と思われる。 (熊本県県央広域本部上益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。 益城町では、いも類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう。収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
甲佐町(甲佐町鳥獣被害防止対策協議会)	甲佐町	R2～R4	イノシシ シカ サル カラス	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ628頭 シカ150頭 サル1頭 カラス類48羽	甲佐町			罠及び駆除隊による捕獲 ・イノシシ R2:207頭、R3:139頭、R4:282頭 合計635頭 ・シカ R2:33頭、R3:37頭、R4:80頭 合計143頭 ・サル R2:0頭、R3:0頭、R4:1頭 合計1頭 ・カラス R2:19羽、R3:13羽、R4:16羽 合計48羽	12,056 72 492 39 計12,659	14588 402 1874 63 計16,927	16.0% -1636.8% -1014.5% -140.0% -35%	6.3 0.08 0.29 0.12 計6.8	11.91 0.4 0.71 0.2 計13.2	-257.3% 3300.0% -500.0% -166.7% -287.3%	全体的に被害が増加傾向にあるため、対策の一つとして緊急捕獲を適年化した。	イノシシ被害の実績値は増加しているものの前年度のみで、それ以前は減少傾向であったことから、一時的な被害の増加と考えられ、事業の効果はあったと考えられる。 一方、シカ及びサル被害は近年増加しており、現状の捕獲だけでは対応できていないと考えられる。捕獲の適年化とともに防護柵の設置など複合的に被害軽減を図る必要がある。 防護柵を設置するにあたっては、イノシシ対策に加え、シカやサルに対応した防護柵を設置する必要がある。併せて、防護柵の管理方法、動物を寄せ付けない集落づくりについて住民の理解促進を図る必要があると思われる。 (熊本県県央広域本部上益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。 甲佐町では、野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう。収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
甲佐町鳥獣被害防止対策協議会	甲佐町	R2～R4	イノシシ シカ サル カラス	有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵 侵入防止柵	箱罟導入 3基 くくりわな導入 54基 電気柵設置 L=10,466m WM柵設置 L=2,621m	甲佐町鳥獣被害防止対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・電気柵及びWM柵設置による被害の減少 ・箱罟及び、くくりわな設置によるイノシシの捕獲	12,056 72 492 39 計12,659	14588 402 1874 63 計16,927	16.0% -1636.8% -1014.5% -140.0% -35%	6.3 0.08 0.29 0.12 計6.8	11.91 0.4 0.71 0.2 計13.2	-257.3% 3300.0% -500.0% -166.7% -287.3%	全体的に被害が増加傾向にあるため、事業の活用を促していく。 イノシシ被害の実績値は増加しているものの前年度の比で、それ以前は減少傾向であったことから、一時的な被害の増加と考えられ、事業の効果はあったと考えられる。 一方で、シカ及びサル被害は近年増加しており、今後は、シカやサルに対応した防護柵を設置する必要があると考えられる。 併せて、防護柵の管理方法、動物を寄せ付けない集落づくりについて住民の理解促進を図る必要があると思われる。 (熊本県県央広域本部上益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	イノシシ被害の実績値は増加しているものの前年度の比で、それ以前は減少傾向であったことから、一時的な被害の増加と考えられ、事業の効果はあったと考えられる。 一方で、シカ及びサル被害は近年増加しており、今後は、シカやサルに対応した防護柵を設置する必要があると考えられる。 併せて、防護柵の管理方法、動物を寄せ付けない集落づくりについて住民の理解促進を図る必要があると思われる。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 甲佐町では、野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう、収穫残遺はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
山都町(山都町鳥獣被害防止対策協議会)	山都町	R2～R4	イノシシ シカ サル	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ10,221頭 シカ6,512頭 サル10頭	山都町		R2 ・イノシシ捕獲奨励金10,000円×3,324頭 ・シカ捕獲奨励金10,000円×1,489頭 (県補助金1,000円×2,085頭) ・サル捕獲奨励金30,000円×3頭 (県補助金11,000円×4頭) ・免許取得補助金10,000円×13名 ・電気柵設置42,039m R3 ・イノシシ捕獲奨励金10,000円×2,476頭 ・シカ捕獲奨励金10,000円×2,242頭 (県補助金1,000円×2,170頭) ・サル捕獲奨励金30,000円×4頭 (県補助金11,000円×5頭) ・免許取得補助金10,000円×7名 ・電気柵設置78,934m R4 ・イノシシ捕獲奨励金10,000×4,421頭 ・シカ捕獲奨励金10,000×2,781頭 (県補助金1,000円×2,267頭) ・サル捕獲奨励金30,000円×3頭 (県補助金11,000×3頭) ・免許取得補助金10,000円×4名 ・電気柵設置70,071m	5,000 4,500 0 計9,500	4,765 3,817 0 計8,582	1061.3% 120.2% - 計455.5%	9 8 0 計17	7.2 4.76 0 計11.96	360.9% 606.3% - 計967.1%	イノシシ・シカともに被害額・被害面積が減少に転じた。駆除隊の捕獲方法が銃又は箱わな及びくくりわなによるため、シカはイノシシの様に親子で複数頭の捕獲が困難であるため、イノシシ、シカ、サルの生息環境整備の重要性を認識してもらい、地域住民と駆除隊の連携によるより効果的な捕獲・防除を推進していく。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 山都町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。			

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
山都町鳥獣被害防止対策協議会	山都町	R2～R4	イノシシ シカ サル	侵入防止柵	WM柵設置 L=8,180m	山都町鳥獣被害防止対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・ワイヤーメッシュ柵等を地域全体で設置する地区が見られ、地域ぐるみで被害防止対策を行う地区が出てきた。 ・箱わなやくり籠の整備を行い新規免許取得者へ貸付、捕獲意欲の向上に努めた。	5,000 4,500 0 計9,500	4,765 3,817 0 計8,582	1061.3% 120.2% - 計455.5%	9 8 0 計17	7.2 4.76 0 計11.96	360.9% 606.3% - 計967.1%	イノシシ・シカについては侵入防止柵の普及が進んでいるが、イノシシやシカ、サルの個体数は未だに増加傾向にあり、特にシカとサルの住宅街での目撃情報が多発しており、集落周辺の農地被害が深刻である。イノシシ、シカ、サルの生息環境整備の重要性を認識してもらうためにも、地域の鳥獣害対策リーダーの育成を行い、地域による一体的な対策を講じるよう推進する。	被害金額・面積とも目標値を達成しており、防護柵設置の効果がみられている。集落周辺の農地被害が深刻ということから、野生鳥獣が集落に入りやすい環境となっていることが考えられる。しかし、すでに協議会を通じて集落単位での鳥獣被害防止対策に取り組んでおり、「事業実施主体の評価」に記載されている通りの対策を推進することで被害軽減が図られると想定される。 (熊本県県央広域本部上益城地域振興局 農業普及・振興課 参事 富永純司)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということも、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 山都町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
菊池市有害鳥獣捕獲協議会	菊池市	R2～R4	イノシシ カラス類 ハト類 タヌキ ノウサギ ニホンジカ アライグマ カワウ	侵入防止柵(新設) 侵入防止柵(復旧) 侵入防止柵(新設) 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 有害捕獲	WM柵 延長131,455m WM柵 延長30,452m 電気柵 延長46,321m イノシシ 2,681頭 ニホンジカ 401頭 カラス類 375羽 箱罠導入 4基	菊池市有害鳥獣捕獲協議会	R2～R4 侵入防止柵 100%	イノシシ捕獲頭数 R2 708頭、R3 955頭、R4 1,018頭 ニホンジカ捕獲頭数 R2 65頭、R3 165頭、R4 171頭 カラス類捕獲頭数 R2 52羽、R3 114羽、R4 209羽 WM柵整備面積 R2 53.68ha、R3 80.43ha、R4 34.00ha 電気柵整備面積 R2 5.35ha、R3 19.10ha、R4 15.44ha	745.00 3,836.00 計4,581.00	35,962.00 5,145.00 計41,107.00	-18732.6% -36.4% 計-3,084.5%	0.70 2.12 計2.82	45.89 1.26 計47.15	-22495.0% 262.3% 計-5972.6%	被害防止計画の目標と実績において、実績値が極端に増加しているが、これは調査被害調査の対象を広げたことによる。年々有害鳥獣の捕獲頭数は増加しており、侵入防止柵の施工箇所も増加しているため、ある一定程度の被害の防止効果があるものと思われる。	侵入防止柵が設置された地域では防止効果はあるが、未設置の地域への拡大が早く、追いついていない。協議会の体制を補強し、対策の拡充に努めてもらいたい。 (熊本県県北広域本部 農業普及・振興課 主幹 林田 稔)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということも、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 菊池市では、稲・飼料作物の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
玉名市 (玉名市鳥獣被害防止対策協議会)	玉名市	R2～ R4	イノシシ カラス類 スズメ類 ヒヨドリ ハト類 カモ類 ハクビシン アナグマ タヌキ ニホンジカ アライグマ ニホンザル	緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ1,981頭 シカ2頭	玉名市			・ワナ及び鉄砲によるイノシシ(成)の捕獲 R2:720頭 R3:496頭 R4:724頭 ・ワナ及び鉄砲によるイノシシ(幼)の捕獲 R2:198頭 R3:105頭 R4:63頭 ・ワナによるシカの捕獲 R3:2頭 R4:2頭 ・鉄砲によるカラスの捕獲 R2:50羽 R3:3羽 R4:2羽 ・鉄砲によるカモ類の捕獲 R3:238羽 R4:250羽 ・ワナによるアライグマの捕獲 R2:1頭	9,290	16,960	-92.2%	16.6	12.42	157.3%	イノシシによる被害については中山間地を中心としたワイヤーメッシュ柵等の防護施設の整備が進み、被害は減少傾向にある。しかしながら、最近では過去には出沒していなかった比較的家が多い地域等での目撃情報が多くなっており、更なる防護施設の整備やイノシシが好まない環境づくりを推進していく必要があると考える。 また、近年では干拓地におけるカモ類による冬場の露地野菜被害が激増しており、対応策を見つけているが、現時点では有効な手立ては見つけれられていない。 他自治体の支援策等を参考に早急な対応が求められる。 アライグマについては近隣自治体での目撃・捕獲情報が相次いでおり、玉名市でも令和5年4月に成獣1頭、幼獣2頭が捕獲されているため、生息域の拡大が懸念されている。捕獲従事者の確保や専用箱罠の購入等対策に取り組んでいく。	防護柵の整備が進んでいることにより、イノシシの生息数は減少傾向にあるように思われる。しかしながら、以前は出沒していなかった住宅地周辺での目撃情報も増えており、さらなる捕獲活動の充実が必要と考える。地域が一体となり、更なる防護施設の整備やイノシシが好まない環境づくりを推進していくために普及啓発活動も併せて実施していきたい。	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていきたい。 玉名市では、野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう。収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。 また、干拓地を中心に被害が発生しているカモによる野菜の被害対策については、地域住民・関係機関等と連携しながら、被害防止対策マニュアル及び県単独事業等も活用しつつ、効果的な対策の検討・実施を行っていただきたい。
玉名市鳥獣被害防止対策協議会	玉名市	R2～ R4	イノシシ カラス類 スズメ類 ヒヨドリ ハト類 カモ類 ハクビシン アナグマ タヌキ ニホンジカ アライグマ ニホンザル	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵	箱わな(大型)導入 18基 箱わな(小型)導入 7基 箱わな(カラス用)導入 1基 WM柵の設置 L=6,956m	玉名市鳥獣被害防止対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・ワナ及び鉄砲によるイノシシ(成)の捕獲 R2:720頭 R3:496頭 R4:724頭 ・ワナ及び鉄砲によるイノシシ(幼)の捕獲 R2:198頭 R3:105頭 R4:63頭 ・ワナによるシカの捕獲 R3:2頭 R4:2頭 ・鉄砲によるカラスの捕獲 R2:50羽 R3:3羽 R4:2羽 ・鉄砲によるカモ類の捕獲 R3:238羽 R4:250羽 ・ワナによるアライグマの捕獲 R2:1頭 ・侵入防止柵(WM柵)の設置によって、農作物等の鳥獣にとってエサになる作物を柵で囲い、野生鳥獣の行動を限定し、周辺地域における効率的な捕獲活動に資することができた。	9,290	16,960	-92.2%	16.6	12.42	157.3%	イノシシによる被害については中山間地を中心としたワイヤーメッシュ柵等の防護施設の整備が進み、被害は減少傾向にある。しかしながら、最近では過去には出沒していなかった比較的家が多い地域等での目撃情報が多くなっており、更なる防護施設の整備やイノシシが好まない環境づくりを推進していく必要があると考える。 捕獲についても、これまで同等の捕獲圧をかけたように努めていく。 また、近年では干拓地におけるカモ類による冬場の露地野菜被害が激増しており、対応策を見つけているが、現時点では有効な手立ては見つけれられていない。 鉄砲でのカモ類の捕獲も積極的に実施していく。 他自治体の支援策等を参考に早急な対応が求められる。 アライグマについては近隣自治体での目撃・捕獲情報が相次いでおり、玉名市でも令和5年4月に成獣1頭、幼獣2頭が捕獲されているため、生息域の拡大が懸念されている。捕獲従事者の確保や専用箱罠の購入等対策に取り組んでいく。	防護柵の整備が進んでいることにより、イノシシの生息数は減少傾向にあるように思われる。しかしながら、以前は出沒していなかった住宅地周辺での目撃情報も増えており、さらなる捕獲活動の充実が必要と考える。地域が一体となり、更なる防護施設の整備やイノシシが好まない環境づくりを推進していくために普及啓発活動も併せて実施していきたい。 また、横島干拓地におけるカモ類による冬場の露地野菜被害軽減のためにも積極的にカモ類の捕獲・追い払いを実施していく。	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ。防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていきたい。 玉名市鳥獣被害対策実施隊 農家 能勢英志 玉名市では、野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう。収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。 また、干拓地を中心に被害が発生しているカモによる野菜の被害対策については、地域住民・関係機関等と連携しながら、被害防止対策マニュアル及び県単独事業等も活用しつつ、効果的な対策の検討・実施を行っていただきたい。

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価												
										被害金額			被害面積																	
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率															
南関町鳥獣被害防止対策協議会	南関町	R2～R4	イノシシ ニホンジカ アナグマ タヌキ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 2,035頭 ニホンジカ1頭 アナグマ25頭 タヌキ2頭	南関町鳥獣被害防止対策協議会			イノシシの捕獲数(町) R02:606頭 R03:665頭 R04:814頭 計2,085頭 狩猟免許取得数 R02:5名 R03:わな=1名、銃=1名 R04:わな=1名、銃=1名 ・電柵設置による水稲被害の減少	9,290	16,960	-92.2%	16.6	12.42	157.3%	近年は、単独事業で、侵入防護柵の設置に取り組んだ。 捕獲頭数が増加傾向で、えづけSTOPの啓発活動が推進できていない。 個々の問題と捉え、守れる集落、守れる農地を進めていくための啓発活動を行っている また、被害報告はないものの玉名管内でアライグマの生息拡大も確認されている。 以上のことを踏まえ、今後とも引き続き関係機関で連携し、対策の見直しや強化を図っていく必要がある。 玉名地域振興局 農業普及・振興課 参事 境田 誠	イノシシについては、被害金額は目標に達していないが、被害面積は、目標値より減少しており、電気柵の設置や緊急捕獲等の事業を活用した対策の効果が現れているものと考えられる。ただし、R4年度は、スズメ類による被害が現状値(H30年度)より増加した【H30年からR3年度までは漸減】。 また、被害報告はないものの玉名管内でアライグマの生息拡大も確認されている。 以上のことを踏まえ、今後とも引き続き関係機関で連携し、対策の見直しや強化を図っていく必要がある。 玉名地域振興局 農業普及・振興課 参事 境田 誠	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていきたい。 南関町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。												
										2,270	3,580	-35.1%	0.5	0.83	-65.0%															
										690	3,885	-1001.7%	0.6	4.02	-1610.0%															
										0	0	-	0	0	-															
										0	0	100.0%	0	0	-															
										僅少	0	-	僅少	0	-															
										0	0	-	0	0	-															
										計12,250	計24,425	計-131.6%	計17.7	計17.27	計105.6%															
										山鹿市(山鹿市被害防止対策協議会)	山鹿市	R2～R4	イノシシ(成獣) イノシシ(幼獣) シカ(成獣) その他	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ(成獣)2,140頭 イノシシ(幼獣)22頭 シカ(成獣)66頭 その他11頭				山鹿市			8,000	20,012	-3264.7%	23.54	38.33	-1197.4%	WM柵の設置により、鳥獣(イノシシやアナグマ等)の侵入を防ぐことにより被害を防ぐ。 しかし令和4年度については被害面積、被害金額ともに目標達成に至っていないものが多く、令和4年度で見ると現状値から悪化しているものも見受けられる。 令和3年度から被害が大きく跳ね上がったのも鑑み、継続して被害を軽減できる方法を考えたい。 捕獲頭数が年々増加しているにも関わらず、農作物の被害も増加している。理由として、コロナ禍によりワイヤーメッシュ柵設置後の点検ができているため、破損した古い柵については修復ができず、農作物の被害が拡大したものと思われる。	防止柵の設置や捕獲の取組は毎年着実に実施されている。被害が目標達成に至っていない状況については、今後、要因解析を行う必要がある。(鹿本地域振興局農業普及・振興課 参事 東貴彦)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていきたい。 山鹿市では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
																						240	1,636	-23166.7%	3	1.28	530.0%			
0	286	-	0	0.06	-																									
0	433	-	0	5.1	-																									
120	171	-750.0%	0.4	0.04	1900.0%																									
400	1,946	-4584.8%	1.3	1.14	366.7%																									
0	0	0.0%	0	0	0.0%																									
0	0	0.0%	0	0	0.0%																									
0	0	0.0%	0	0	0.0%																									
0	23	-	0	0.11	-																									
計8,760	計24,507	計-3817.2%	計28.24	計46.06	計-1000%																									

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
山鹿市被害防止対策協議会	山鹿市	R2～R4	イノシシ(イブタ)含む、カラス類、ヒヨドリ、ハト類、カモ類、アナグマ、ニホンジカ、タヌキ、イタチ、テン、キツネ、アライグマ	侵入防護柵	WM柵設置 L=38,958m	山鹿市被害防止対策協議会	R2～R4	侵入防止柵	・WM柵設置による農作物被害の減少 有害獣は防護柵沿いに歩くという事を利用し、箱罠等による捕獲を実施することに寄与。	8,000	20,012	-3264.7%	23.54	38.33	-1197.4%	WM柵の設置により、鳥獣(イノシシやアナグマ等)の侵入を防ぐことにより被害を防ぐ。 しかし令和4年度については被害面積、被害金額ともに目標達成に至っていない。見回りによる柵の補修を強化し、継続して被害を軽減できる方法を考えた。 計8,760	被害が目標達成に必要がある。(鹿本地域振興局農業普及・振興課 参事 東貴彦)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせる総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。	山鹿市では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
										240	1,636	-23166.7%	3	1.28	530.0%				
										0	286	-	0	0.06	-				
										0	433	-	0	5.1	-				
										120	171	-750.0%	0.4	0.04	1900.0%				
										400	1,946	-4584.8%	1.3	1.14	366.7%				
										0	0	0.0%	0	0	0.0%				
										0	0	0.0%	0	0	0.0%				
										0	0	0.0%	0	0	0.0%				
										0	23	-	0	0.11	-				
										計8,760	計24,507	計-3817.2%	計28.24	計46.06	計-1000%				
産山村(産山村鳥獣被害防止対策協議会)	産山村	R2～R4	イノシシ シカ カラス サギ アナグマ タヌキ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 570頭 シカ 150頭	産山村		わなによるイノシシの捕獲(R2～R4) 成獣:70頭 幼獣:120頭 わなによるシカの捕獲(R2～R4) 成獣:50頭 実施隊員数 R2:23人 R3:31人 R4:29人	187	2,935	-3335.0%	0.9	2.8	-430.6%	イノシシ、シカの捕獲頭数は増加傾向にあり、被害も年々増加している。主に、侵入防止柵を設置していない圃場に被害が出ているが、侵入防止柵を設置している圃場でもイノシシ・シカの侵入が確認されている。近年は、農道、水路や畦畔等が被害にあっているため、農道、水路や畦畔も含めて侵入防止柵を設置するなどの対策が必要である。 今後は被害のある地域の見回りを行い、えづけストップ等の取り組みを推進し、集落ぐるみで被害防止対策を推進する必要がある。	イノシシについては、被害金額と被害面積ともに達成率が低く、特に対策が必要である。イノシシとシカの捕獲頭数は増加傾向にあることだが、今後も引き続き捕獲を強化して欲しいと思う。 鳥獣被害防止のためには地域ぐるみで取り組むことが大切であるため、地域の見回りや県単事業等を活用した勉強会や講習会にも取り組んでいただきたいと思う。 (阿蘇地域振興局 農業普及・振興課 技師 永野 佐英)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせる総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。	産山村では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
									1,062	1,896	-83.3%	19.6	32.1	-49.3%					
									175	250	0.0%	0.17	0.25	0.0%					
									74	90	47.6%	2.8	3.0	83.3%					
									計1,498	計5,171	計-472.6%	計23.5	計38	計-46.7%					

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
産山村 (産山村鳥獣被害防止対策協議会)	産山村	R2～R4	イノシシ ニホンジカ カラス類 サギ類 タヌキ アナグマ アライグマ	侵入防止柵 侵入防止柵	WM柵の設置 L=4,679m 電気柵の設置 L=2,270m	産山村鳥獣被害防止対策協議会	R4	侵入防止柵 100%	電気柵、WM柵を設置したことにより、設置した囲場の水稲被害が減少した。	187	2,935	-3335.0%	0.9	2.8	-430.6%	イノシシ、シカの捕獲頭数は増加傾向にあり、被害も年々増加している。主に、侵入防止柵を設置していない圃場に被害が出ているが、侵入防止柵を設置している圃場でもイノシシ・シカの侵入が確認されている。近年は、農道、水路や畦畔等が被害にあっているため、農道、水路や畦畔も含めて侵入防止柵を設置するなどの対策が必要である。今後は被害のある地域の見回りを行い、えづけストップ等の取り組みを推進し、集落ぐるみで被害防止対策を推進する必要がある。	イノシシ、シカについては、被害金額と被害面積ともに達成率が低く、特に対策が必要である。今後も、侵入防止柵を設置するなどして被害防止に取り組むとともに、設置後の見回り・点検を行い、適切に維持管理する必要がある。鳥獣被害防止のためには地域ぐるみで取り組むことが大切であるため、地域の見回りや県単事業等を活用した勉強会や講習会にも取り組んでいただきたいと思う。(阿蘇地域振興局 農業普及・振興課 技師 永野 佐英)	被害金額・被害面積とともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。	被害金額・被害面積とともに、目標を達成していない。
										1,062	1,896	-83.3%	19.6	32.1	-49.3%				
										175	250	0.0%	0.17	0.25	0.0%				
										74	90	47.6%	2.8	3.0	83.3%				
										計1,498	計5,171	計-472.6%	計23.5	計38	計-46.7%				
高森町 (高森・竹田・高千穂鳥獣被害広域対策協議会)	高森町	R2～R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル アナグマ アライグマ カラス	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ(成獣) 2,381頭 イノシシ(幼獣)26頭 シカ 5,036頭	高森町			イノシシ R2:1,016頭、R3:626頭、R4:765頭 ニホンジカ R2:1,655頭、R3:1,726頭、R4:1,655頭 ・わな免許 R2:69人、R3:69人、R4:69人 ・第1種銃猟免許 R2:58人、R3:58人、R4:58人	16,100	12,515	151.9%	19.6	18.45	113.5%	被害金額は目標値を達成しているが、被害面積は、イノシシのみ達成しているが、それ以外の対象鳥獣は、達成率が100%をきっているという状態になっている。緊急捕獲頭数は年々増加している。昨年度より捕獲頭数が少ない年がなく被害額が増えている要因と考えられる。	被害金額と被害面積について、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。	被害金額・被害面積とともに、目標を達成している。被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。	
										4,140	752	290.3%	1.05	1.06	97.8%				
										15,000	9,201	190.0%	15.5	17.02	77.3%				
										計35,240	計22,468	計184.4%	計36.15	計36.53	計97.6%				

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
氷川町(氷川町鳥獣被害対策協議会)	氷川町	R2～R4	イノシシ	緊急捕獲	シカ1,015頭	氷川町				シカ捕獲数	900	3,363	-2338.6%	0.36	0.41	-25.0%	<p>獣類の捕獲数については、イノシシ、アナグマは増加しているが、シカ、タヌキについては減少及び横ばいの傾向にある。獣類による被害金額は、捕獲数に関わらず一律で増加している。他地域からの流入による個体数の増加や狩猟者の高齢化が要因と考えられる。鳥類の捕獲数については、全体的に増加している。鳥類による被害金額は、捕獲数の増加や農家による追い払いの普及もあり、減少傾向にある。</p>	<p>被害については、捕獲数は年次変動があるものの一定量が捕獲されている。一方、被害額が増加しており、地域全体での防護柵等の侵入防止対策や環境整備が必要である。鳥害については、捕獲数の増加もあって被害減少効果が伺える。さらに、地域全体で収穫残渣の解消等を実施して、被害防止に繋げることを期待する。</p> <p>県南南広域本部農業普及・振興課 主幹 山部 秀敏</p>	<p>被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。</p> <p>本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。</p> <p>防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。</p> <p>氷川町では、果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう、収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。</p> <p>捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。</p> <p>また、干拓地を中心に被害が発生しているカモによる野菜の被害対策については、地域住民・関係機関等と連携しながら、被害防止対策マニュアル及び県単独事業等も活用しつつ、効果的な対策の検討・実施を行っていただきたい。</p>
			ニホンジカ	緊急捕獲	イノシシ597頭					イノシシ捕獲数	450	810	-620.0%	2.7	0.17	943.3%			
			タヌキ	緊急捕獲	タヌキ28頭					タヌキ捕獲数	541	739	-230.0%	0.27	0.08	733.3%			
			アナグマ	緊急捕獲	アナグマ111頭					アナグマ捕獲数	1,440	4,047	-1529.4%	2.7	0.09	970.0%			
			カラス類	緊急捕獲	カモ類297羽					カモ類捕獲数	2,986	3,523	-61.7%	4.54	0.77	839.2%			
			ヒヨドリ	緊急捕獲	カラス類11羽					カラス類捕獲数	3,738	2,131	487.2%	3.08	0.35	902.9%			
			カモ類	緊急捕獲	ヒヨドリ2,467羽					ヒヨドリ捕獲数	8,125	7,777	138.5%	32	3	1066.7%			
			オオバン								599	0	994.0%	0.24	0	900.0%			
			カワウ								計18,779	計22,390	計-72.9%	計45.79	計5.16	計898.2%			
			氷川町鳥獣被害対策協議会	氷川町	R2～R4					イノシシ	有害捕獲	狩猟免許取得講習会助成	氷川町鳥獣被害対策協議会						
ニホンジカ	有害捕獲	箱わな(大型)導入 10基				箱わな(大型)導入	450	810	-620.0%	2.7	0.17	943.3%							
タヌキ	有害捕獲	ラミネート用紙 1式				ラミネート用紙	541	739	-230.0%	0.27	0.08	733.3%							
アナグマ	被害防除	技術指導者による被害防止に関する研修会2回				技術指導者による被害防止に関する研修会	1,440	4,047	-1529.4%	2.7	0.09	970.0%							
カラス類	被害防除	トリサツタ(威嚇機材)導入 5台				トリサツタ(威嚇機材)導入	2,986	3,523	-61.7%	4.54	0.77	839.2%							
ヒヨドリ	被害防除						3,738	2,131	487.2%	3.08	0.35	902.9%							
カモ類							8,125	7,777	138.5%	32	3	1066.7%							
オオバン							599	0	994.0%	0.24	0	900.0%							
カワウ							計18,779	計22,390	計-72.9%	計45.79	計5.16	計898.2%							

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
津奈木町有害鳥獣被害防止対策協議会	津奈木町	R2～R4	イノシシ ニホンジカ カラス類 ヒヨドリ アナグマ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ 496頭 ニホンジカ 13頭 アナグマ 70頭	津奈木町有害鳥獣被害防止対策協議会			イノシシの捕獲 R2:194頭 R3:213頭 R4:424頭 シカの捕獲 R2:2頭 R3:4頭 R4:9頭 アナグマ R3:28頭 R4:87頭	122	7,794	-9372%	0.5	20.18	-5863.6%	<p>前回の評価報告について『被害状況の確認方法を検討し、適切な事業評価を実施できるような努めとともに、有害捕獲従事者の育成を更に推進していく必要がある。』とのことであったため、令和4年度においては、県や関係団体と連携し協議を重ね、より現状に近い被害状況を把握するため農家等の聞き取りによる変更を行った。</p> <p>このことにより、捕獲頭数については防止計画の目標頭数をトータルで大幅に超えて達成しているものの、被害金額・被害面積ともイノシシ・ニホンジカ・ヒヨドリともに実績値が激増する結果となった。(アナグマについては、被害把握が困難な状況となっている。)</p> <p>また、有害鳥獣捕獲の従事者の高齢化が課題となっており、若手農業者による捕獲も推進してはいるものの、農業との両立は難しいように感じる。</p> <p>緊急捕獲事業において、イノシシは例年捕獲頭数も多くなっているが、近年はニホンジカの捕獲頭数も増えてきており、今後はシカ捕獲にも注力する必要がある。</p> <p>現状の被害状況も踏まえて、捕獲・従事者育成の更なる強化を進める必要がある。</p>	<p>農作物に対するイノシシ被害の数が多く聞かれるなか、近年はニホンジカの個体数増加により被害が深刻である。当協議会の箱篋を導入や免許取得補助による従事者の確保対策は引き続き行っていく必要がある。また、シカ被害対応としても広域的に連携し鳥獣対策を図っていく必要がある。</p> <p>捕獲従事者の実態を見れば、賃の管理や捕獲後の処理に苦慮されているとの事であり、今後は処理施設の検討が必要ではないか。</p> <p>また、箱篋の管理についても、見回りの労力軽減策として賃に捕獲された場合の通報システムなどの導入も検討が必要ではないか。</p> <p>津奈木町議会議長 柳迫 好則</p>	<p>被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。</p> <p>本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等については、より対策を徹底していただきたい。</p> <p>防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。</p> <p>県内には、地域ぐるみで対策に取り組む被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。</p> <p>津奈木町では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないうち、収穫残遺はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。</p> <p>捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。</p>
人吉市有害鳥獣被害対策協議会	人吉市	R2～R4	イノシシ カラス類 ニホンザル ニホンジカ アナグマ カワウ	有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵	狩猟免許初心者講習会補助 7人 捕獲技術向上研修 1回 電気柵の設置 L=39,385m	人吉市有害鳥獣被害対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	<ul style="list-style-type: none"> 鹿、猟銃によるイノシシの捕獲 R2:292頭 R3:274頭 R4:357頭 鹿によるカラス類の捕獲 R2:323羽 R3:326羽 R4:497羽 鹿、猟銃によるニホンザルの捕獲 R2:16頭 R3:22頭 R4:19頭 鹿、猟銃によるニホンジカの捕獲 R2:1,325頭 R3:1,500頭 R4:1,647頭 鹿によるアナグマの捕獲 R2:66頭 R3:97頭 R4:135頭 狩猟免許初心者講習会補助による狩猟者の育成 R2:3人 R3:0人 R4:4人 捕獲技術向上研修による先進地研修 R4:実施隊員14人 電気柵設置による農作物被害の減少 人吉市有害鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動 	8,651	3,966	220.0%	3.24	4.83	-14.3%	<p>推進事業では、鳥獣被害対策実施隊の隊員を確保するための狩猟免許講習会に参加された方に補助を行い、3年間で7人取得し若手隊員として活動を行っている。</p> <p>また、隊員の捕獲技術向上研修として、ペットフード加工施設、捕獲活動などを積極的に展開している団体の活動について研修を行う。捕獲動物の活用や捕獲の実情について学び今後の捕獲活動の参考とした。</p> <p>整備事業として、3年間で39,000m以上の電気柵を設置することにより、農作物の被害防止に効果を発揮した。一方、未設置農地での被害が発生している状況もあり、今後も侵入防止柵の活用を普及拡大を図っていく。</p>	<p>鳥獣被害対策実施隊の隊員育成や捕獲技術向上研修等に取り組むとともに、緊急捕獲も実施。</p> <p>さらに、整備事業で電気柵の設置にも取り組み、農作物被害防止に努められている。</p> <p>これらの取り組みにより、イノシシ、ニホンザル等の鳥獣被害額が減少しているが、ニホンジカの被害金額の達成率は目標値の8.2%に留まっている。</p> <p>このため、引き続き鳥獣被害防止対策に取り組む中、ニホンジカによる被害の軽減に注力していく必要がある。</p> <p>県内には、地域ぐるみで対策に取り組む被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。</p> <p>人吉市では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。</p> <p>捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。</p>	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
錦町有害鳥獣被害対策協議会	錦町	R2～R4	イノシシ シカ サル アナグマ カラス類 ヒヨドリ	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 被害防止 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 侵入防止柵	笠松式くりわな 130基 初心者講習会受講料補助 15名 イノシシ・シカ兼用囲い 1基 イノシシ・シカ兼用箱ワナ 12基 アナグマ用箱ワナ 20基 くりわな資材 一式 追払い活動の実施 67回 イノシシ 356頭 シカ 904頭 サル 54頭 アナグマ 114頭 カラス類 363羽 ヒヨドリ 4, 227羽 電気柵設置 L=3.270m	錦町有害鳥獣被害対策協議会	R2	100%	〇くりわな導入後の総捕獲頭数 ・イノシシ R2・137頭 R3・154頭 R4・149頭 ・シカ R2・279頭 R3・370頭 R4・478頭 ・サル R2・19頭 R3・20頭 R4・20頭 ・アナグマ R2・41頭 R3・32頭 R4・42頭 〇箱罠によるイノシシの捕獲 R3、R4ともに捕獲実績無し 〇箱罠によるアナグマの捕獲 R3:15頭 R4:14頭 〇初心者講習会受講料補助による狩猟者の育成 わな免許 R2・7名 R3・3名 R4・2名 第一種銃猟 R2・0名 R3・0名 R4・1名 第二種銃猟 R3・4名 R3・0名 R4・0名 OR2電気柵設置によるイノシシ被害の減少	180 89 221 168 0 0 計658	1050 0 86 2375 147 404 計4,062	-87.9% 136.9% 124.9% -435.7% -194.0% 40.1% -99.3%	0.29 0.14 0.03 0.01 0 0 計0.47	1.37 0 0.06 0.05 0 0 計1.72	-33.3% 140.0% 75.0% -33.3% -1500.0% - 5.3%	●イノシシについてはR2に導入した笠松式くりわなを実施隊に貸出し運用したため捕獲頭数は増えていた。しかし被害面積・被害金額ともに現状値よりも増加しており、生息数が増加しているものと思われる。 ●シカについてもR2に導入したくりわなを貸出し運用したため捕獲頭数は増加し被害金額・面積ともに減少している。しかしながら、森林資源への剥皮被害が発生しており、対策が必要である。 ●サルについてはくりわなを貸出しと共に追払い活動を実施することで、捕獲と被害防止を並行して行った。そのため捕獲頭数は20頭前後を捕獲し被害面積は減少した。 ●アナグマについては、実施隊の捕獲活動に加えR3に導入した小型獣用箱ワナを貸出し被害軽減に努めたが、R4年度についてはイチゴへの被害が発生し被害額が増加している。 ●カラス類については、捕獲活動と追払い活動を並行して行うことにより被害軽減に努めてきたが、果樹園の密集した地域での被害が発生した。 ●ヒヨドリについては、捕獲活動と追払い活動を並行して行うことで被害軽減に努めてきた。R4は、R2の約3倍の捕獲実績がありそれに伴い被害金額及び面積が減少した。	・狩猟免許取得推進のため、初心者講習会受講料補助を実施し、今後の狩猟者の確保につながった。 また、くりわな、箱ワナ、囲いワナ等を導入し、実施隊に貸し出すことで捕獲頭数の増加に寄与しており、緊急捕獲も実施されている。 さらに、追払い活動の実施や電気柵整備に取り組み、農作物被害の軽減に努められている。 しかし、鳥獣被害額の軽減は目標値に達していない(シカを除く)。 このため、引き続き鳥獣被害防止対策に取り組み、新たに出てきたアナグマ被害についても対策を講じていく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防止や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 錦町では野菜の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けず、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
あさぎり町(あさぎり町有害鳥獣被害防止対策協議会)	あさぎり町	R2～R4	イノシシ シカ サル アナグマ カラス カワウ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	イノシシ374頭 シカ2,533頭 サル37頭 イノシシ捕獲数 R2:100頭、R3:128頭、R4:146頭 ・サル捕獲数 R2:4頭、R3:23頭、R4:10頭	あさぎり町			・シカ捕獲数 R2:637頭、R3:1130頭、R4:766頭 ・イノシシ捕獲数 R2:100頭、R3:128頭、R4:146頭 ・サル捕獲数 R2:4頭、R3:23頭、R4:10頭	17,100 130 0 240 0 計17,470	17,342 384 0 0 0 計17,726	97% -338% - 314% - 計96.6%	141.00 0.20 0.00 1.80 0.00 計143	121.05 0.37 0 0 0 計121.42	133% 6% - 300% - 計135%	・シカについては、近年の捕獲実績およびWM柵整備により、被害面積が減少しているように思われる。 しかし、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和) ・アナグマについては、被害数値は無いが、目撃情報はあっている状況である。 ・カラスについては、被害が減少傾向にある。	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 しかし、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和) 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 あさぎり町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
あさぎり町有害鳥獣被害防止対策協議会	あさぎり町	R2、R4	イノシシ シカ サル アナグマ カラス カワウ	有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 侵入防止柵	狩猟免許取得講習会助成 5人 囲いわなの購入 1基(4.0m×4.0m) 電気止め刺し器の購入 1セット WM柵設置 L=7,658m	あさぎり町有害鳥獣被害防止対策協議会	R2,R4	侵入防止柵 100%	・WM柵設置によるイノシシ、シカによる農地被害減少。 ・狩猟免許取得助成による免許取得 R2:4人(わな:4人、第1種銃猟:1人) R3:0人 R4:1人(わな:1人)	17,100 130 0 240 0 0 計17,470	17,342 384 0 0 0 0 計17,726	97% -338% — 314% — — 計96.6%	141.00 0.20 0.00 1.80 0.00 0.00 計143	121.05 0.1 0 0 0 0 計121.15	133% 156% — 300% — — 計135.5%	・シカについては、近年の捕獲実績およびWM柵整備により、被害面積が減少しているように思われる。 ・イノシシの捕獲実績は令和4年度においては例年より多かった。被害状況はほぼ横ばいの状態である。 ・サルについては追い払い等を行っているが、目撃情報の報告が多数ある。 ・アナグマについては、被害数値は無いが、目撃情報はあっている状況である。 ・カラスについては、被害が減少傾向にある。	・狩猟免許取得推進のため、講習会受講料助成を確保し、今後の狩猟者の確保につながった。 WM柵整備、囲いわな導入により、農作物被害の軽減に努められている。 ・シカによる被害額はWM柵整備等の効果により目標値の97%まで軽減できているが、イノシシによる被害額は現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 あさぎり町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
多良木町(多良木町有害鳥獣被害対策協議会)	多良木町	R2～R4	ニホンジカ イノシシ ニホンザル ノウサギ カラス類・ドバト アナグマ カワウ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ニホンジカ2,557頭 イノシシ408頭 ニホンザル21頭 カラス類・ドバト5羽 アナグマ168頭	多良木町				1,786 260 8 — 138 2 — 計2,194	1,520 695 45 0 0 0 0 計2,260	134.8% -288.4% -825.0% — 333.9% 300.0% — 計93.0%	64.53 0.57 0.02 — 0.02 0 — 計65.14	8.13 1.48 0.07 — 0 0 — 計9.68	303.9% -264.0% -400.0% — 200.0% 100.0% — 計298.2%	・農作物被害の軽減のため、緊急捕獲に取り組んでいる。 ・しかし、イノシシ、ニホンザルによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 多良木町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
相良村 (相良村鳥獣被害防止対策協議会)	相良村	R2～R4	ニホンジカ ニホンザル イノシシ カラス類 アナグマ カワウ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ニホンジカ1,903頭 ニホンザル82頭 イノシシ424頭	相良村			・鳥等によるニホンジカの捕獲 R2:811頭 R3:580頭 R4:512頭 ・鳥等によるニホンザルの捕獲 R2:36頭 R3:30頭 R4:16頭 ・鳥等によるイノシシの捕獲 R2:185頭 R3:105頭 R4:134頭	1,716	1641	117.4%	5.39	5.71	76.1%	・基本的には有害鳥獣捕獲により個体数が減少したことと、被害の減少に繋がっていると思われるが、有害鳥獣は市町村界に關係なく移動するため、引き続き継続的な取り組みが必要である。 ・また、対象鳥獣の中でも特にアナグマの被害が増加傾向にあるため、捕獲の強化を図っている。	・農作物被害の軽減のため、緊急捕獲に取り組まれている。 ・この結果、ニホンジカ、ニホンザル、カラス類の被害金額については、目標値をクリアしているが、イノシシ被害金額は目標値の74.1%に留まり、アナグマ被害金額は現状値を大きく上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組み、特にアナグマについては被害防止対策を強化していく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせ合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。 相良村では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	
五木村 (五木村有害鳥獣被害防止対策協議会)	五木村	R2～R4	ニホンジカ ニホンザル イノシシ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ニホンジカ 3,934頭 ニホンザル 48頭 イノシシ 209頭	五木村			・鳥獣被害対策実施隊の活動 (従事者の活動日数) R2・ニホンジカ1,496日 ニホンザル19日 イノシシ108日 R3・ニホンジカ1,531日 ニホンザル19日 イノシシ63日 R4・ニホンジカ1,618日 ニホンザル32日 イノシシ57日	16,025	27,517	-186.9%	238	69.5	385.6%	シカによる被害面積は大幅に減少したが、被害金額は大幅に増加する結果となった。 ・しかしながら、ニホンジカについては甚大な被害額となっている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	・農作物被害の軽減のため、緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかしながら、ニホンジカについては甚大な被害額となっている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせ合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵の設置・管理については、引き続き地域住民との連携が不可欠である。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。 五木村では、野菜類の被害が大きい。作物収穫後の期間も、鳥獣を引き寄せないよう、収穫残渣はすぐに処分する等対策を行っていただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価		
										被害金額			被害面積							
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率					
山江村 (山江村鳥獣被害防止対策協議会)	山江村	R2～R4	イノシシ ニホンジカ サル アナグマ カラス類 カワウ	緊急捕獲	イノシシ1,031頭	山江村				イノシシ	182	1342	-537.4%	0.74	1.19	39.2%	<p>・農作物被害の軽減のため、緊急捕獲に取り組み、年々捕獲数は増加している。しかしながら、被害額は現状値、目標値を大きく上回っている。</p> <p>・このため、引き続き、緊急捕獲頭数を増やす等鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。</p> <p>(熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)</p>	<p>被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。</p> <p>本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防止や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。</p> <p>防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。</p> <p>県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。</p> <p>山江村では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。</p> <p>捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。</p>		
				緊急捕獲	シカ2,431頭					395	1122	-269.0%	0.31	1.24	-675.0%					
				緊急捕獲	サル51頭					81	192	-37.0%	0.17	0.29	33.3%					
				緊急捕獲	アナグマ247頭					36	114	-110.8%	0.01	0.02	50.0%					
				緊急捕獲	カラス17羽					0	47	-261.5%	0	0.02	-100.0%					
				計694	計2,817	計-316.3%	計1.23	計2.76	計-43.0%											
山江村鳥獣被害防止対策協議会	山江村	R2～R4	イノシシ ニホンジカ サル アナグマ カラス類 カワウ	侵入防止柵	WM柵 L=2,070m	山江村鳥獣被害防止対策協議会	R3～R4	侵入防止柵	100%	電気柵、防護ネットの設置によるシカ、イノシシ等の被害の減少	182	1342	-537.4%	0.74	1.19	39.2%	<p>R4年度に鳥獣被害が多く、また、被害農家からも多くの声が拾えるようになったため、被害金額、面積ともに増加した。整備事業を行った場所に関しては被害は出ていないため、今後の侵入防止柵等の整備事業により、被害を食い止めることが必要であると考え</p>	<p>・農作物被害の軽減のため、令和3年度から侵入防止柵の設置を実施。</p> <p>・その結果、侵入防止柵設置地区では農作物被害を防止できているが、山江村全体では被害額が現状値、目標値を大きく上回っている。</p> <p>・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。</p> <p>(熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)</p>	<p>被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。</p> <p>本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防止や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。</p> <p>防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。</p> <p>県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。</p> <p>山江村では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。</p> <p>捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。</p>	
				侵入防止柵	電気柵(5段) L=5,175m					395	1122	-269.0%	0.31	1.24	-675.0%					
										81	192	-37.0%	0.17	0.29	33.3%					
										36	114	-110.8%	0.01	0.02	50.0%					
										0	47	-261.5%	0	0.02	-100.0%					
				計694	計2,817	計-316.3%	計1.23	計2.76	計-43.0%											

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
球磨村 (球磨村鳥獣被害防止協議会)	球磨村	R2～R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル カラス類 アナグマ カワウ アライグマ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	ニホンジカ 2,673頭 イノシシ(成獣) 466頭 イノシシ(幼獣) 93頭 ニホンザル 36頭 アナグマ 184頭	球磨村			銃器及び農でのニホンジカの捕獲 R2 641頭 R3 850頭 R4 1182頭 銃器及び農でのイノシシ(成獣)の捕獲 R2 141頭 R3 190頭 R4 135頭 銃器及び農でのイノシシ(幼獣)の捕獲 R2 19頭 R3 44頭 R4 30頭 銃器及び農でのニホンザルの捕獲 R2 5頭 R3 8頭 R4 23頭 銃器及び農でのアナグマの捕獲 R2 20頭 R3 80頭 R4 84頭	1,010	14,348	-465.6%	1.13	69.84	-2492.8%	捕獲頭数について、年々上がっているところであるが、被害状況も増えているところである。今後も捕獲頭数の維持をし、農作物被害対策につなげていく。	・農作物被害の軽減のため、緊急捕獲に取り組みられている。 ・しかしながら、被害額は現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防止や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 球磨村では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
球磨村鳥獣被害防止協議会	球磨村	R2～R4	イノシシ ニホンジカ ニホンザル カラス類 アナグマ カワウ アライグマ	有害捕獲 誘導捕獲柵わな導入 侵入防止柵 侵入防止柵 処理加工施設	狩猟免許取得講習会助成 14人 誘導捕獲柵わな 1式 電気柵の設置 L=14,030m 金網柵の設置 L=595.5m 急速冷凍庫 1基	球磨村鳥獣被害防止協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・狩猟免許取得助成による狩猟者の育成 わな免許 R2:6人 R3:2人 R4:5人 第1種銃猟 R2:1人 R3:2人 R4:1人 ・電柵及び金網柵設置による、鹿被害の減少 ・加工所におけるシカの搬入頭数 R3:284頭 → R4:409頭	1,010	14,348	-465.6%	1.13	69.84	-2492.8%	電柵及び金網柵の設置箇所において、鳥獣被害は減少しているが、未設置箇所や耕作放棄地において、被害が増加している。 侵入防止柵の設置、誘導捕獲柵わなの導入により、農作物被害の軽減に努められている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害対策に取り組んでいく必要がある。 (熊本県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 参事 光永良和)	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防止や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取り組む、被害ほほ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 球磨村では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けないよう、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
天草市 (天草市有害鳥獣捕獲対策協議会)	天草市	R2~R4	イノシシ ニホンジカ タヌキ カラス類 サギ類 ヒヨドリ	処理加工施設整備	減容化処理施設 1カ所	天草市	R3.7 設利用率	%	処理施設搬入頭数 R3 744頭 R4 1,199頭 減容化率 R3 37.32% R4 36.33%	17,795 — — 1,013 計18,808	26,271 580 2,124 2,463 計31,438	-132.5% — — -597.1% 計-227.8%	12.4 — — 0.4 計12.8	12.6 0.2 0.3 0.4 計13.5	92.3% — — 100.0% 計74.1%	施設建設前は、捕獲したイノシシの処分は主として埋設処理を行っていた。埋設処理は場所の確保や掘削が捕獲者の負担となり、捕獲活動における課題であった。施設の稼働後は、止め刺しから1時間以内の搬入と条件はあるものの、一ヶ月平均でR3は約83頭であったが、R4は約100頭となり、利用頭数並びに利用率とも増加している。また、捕獲者に占める搬入者の割合もR3が21.15%からR4は24.38%と増加しており、捕獲者の負担軽減に寄与している。施設の運営については地元猟友会で構成された「あまくさ地域創造」に委託しており、委託料も含めた運営に係る経費が課題となっている。	県内屈指の捕獲数となっている天草市において、令和4年度の捕獲イノシシの16%、捕獲者の24%が利用され、捕獲数も前年度6,620頭から本年度7,351頭と増加している。このことから、捕獲者の負担軽減による捕獲の向上につながっていると考察されるため、事業効果が出ていると思われる。搬入条件等により、利用地区に限られることから、利用地区が拡大できる仕組みづくり及び施設運営の安定化への取り組みを進められることを期待します。熊本県天草広域本部 農業普及・振興課 主幹 村上公朗	被害金額・被害面積ともに、目標を達成していない。本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。
天草市有害鳥獣捕獲対策協議会	天草市	R2~R4	イノシシ ニホンジカ タヌキ カラス類 サギ類 ヒヨドリ	推進体制の整備 有害捕獲 有害捕獲 有害捕獲 ICT等新技術の活用 ジビエ等の利用拡大 ジビエ等の利用拡大 重点捕獲対策強化 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	会議開催 6回 はこ震導入(イノシシ:固定式) 116基 はこ震導入(イノシシ:組立式) 20基 はこ震導入(タヌキ) 60基 捕獲連絡機 30基 衛生管理研修会 1回 国産ジビエ認証取得 1施設 センサーカメラ購入 6式 イノシシ(成獣) 16,453頭 イノシシ(幼獣) 4,179頭 シカ(成獣) 2頭 タヌキ 727頭 カラス類 203羽	天草市有害鳥獣捕獲対策協議会		購入罟によるイノシシの捕獲(当該年度に購入した罟で捕獲した数) R2 55頭 R3 171頭 R4 66頭 連絡機によるイノシシの捕獲(当該年度に購入した連絡機が捕獲に関与した数) R3 52頭 R4 52頭 購入罟によるタヌキの捕獲(当該年度に購入した罟で捕獲した数) R2 70頭 R3 30頭 国産ジビエ認証取得 R4 1施設	17,795 — — 1,013 計18,808	26,271 580 2,124 2,463 計31,438	-132.5% — — -597.1% 計-227.8%	12.4 — — 0.4 計12.8	12.6 0.2 0.3 0.4 計13.5	92.3% — — 100.0% 計74.1%	令和4年度の被害額はイノシシを始め、すべての鳥獣において計画策定時から増加している。被害額の増加要因としては、鳥獣の生息域の変化や個体数の増加が考えられる。イノシシの全体での捕獲頭数は事業による捕獲機器の整備効果もあり、年々増加傾向にあり、R2年度は過去最高の捕獲頭数となり、R4年度についてもR2年度に次ぐ捕獲頭数となっている。※捕獲頭数の推移 H30年(6,024) R01年(6,093) R02年(7,616) R03年(6,620) R04年(7,351)	天草市では、被害金額は、平成27年度をピークに多少の増減はあるものの減少傾向である。また、捕獲頭数は、7,000頭前後を維持している。このことから、捕獲者の高齢化など、捕獲環境が厳しくなるなか、捕獲技術の向上が図られていると考察されるため、本事業による成果は出ていると思われる。しかし、被害金額及び面積は目標に達していないため、被害発生状況に応じた継続的な取組みが必要と思われる。熊本県天草広域本部 農業普及・振興課 主幹 村上公朗	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にさせていただきたい。天草市では果樹の被害が大きい。作物収穫後の期間も鳥獣を寄せ付けず、う、収穫残渣はすぐに適切に処分する等対策を行っていただきたい。防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。	

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
等北町有害鳥獣駆除対策協議会	等北町	R2～R4	イノシシ タヌキ カラス類 ヒヨドリ カモ ニホンジカ	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲 侵入防止柵 侵入防止柵	イノシシ 成獣 1,454頭 イノシシ 幼獣 825頭 イノシシ ジビエ利活用 13頭 タヌキ 145頭 金網柵設置 L=2,372m	等北町有害鳥獣駆除対策協議会	R2～R4	侵入防止柵 100%	・糞によるイノシシの捕獲 R2:632頭、R3:737頭、R4:936頭 ・金網柵によるイノシシ被害の減少 ・ジビエ利用数または利用率 R2:0%、R3:1%、R4:2%	370	1046	-2.1%	0.9	1.11	87.0%	年々イノシシの捕獲頭数は増えているが設置した金網柵での被害報告は受けていない。整備した施設以外の被害が増えていると考えられる。	等北町では、被害防止計画の目標値は達成できていない。そのなかでも、近年、捕獲数は増加、被害金額及び被害面積はほぼ横ばいで推移している。このことから、捕獲者の高齢化など、捕獲環境が厳しくなる状況にあっても、捕獲数が増加していることは、本事業による成果と考えられる。しかし、被害金額及び面積は目標に達していないため、被害発生状況に応じた継続的な取組みが必要と思われる。	被害金額の推移 H30年:1,332千円 R1年:1,101千円 R2年:1,072千円 R3年:1,573千円 R4年:1,261千円 熊本県天草広域本部 農業普及・振興課 主幹 村上公朗	被害面積は、目標を達成しており、事業を活用し、おおむね被害軽減につながることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけでなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意図しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や柵の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るといふ考えは間違いだということ、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 等北町では、稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面での対策を強化していく必要がある。
										150	0	200.0%	0.05	0	200.0%				
										計520	計1,190	計17.5%	計0.95	計1.43	計71.1%				
熊本県	熊本県全域	R4	イノシシ シカ等	人材育成活動 ジビエ利用拡大	被害防止対策にかかる指導者育成研修 広域捕獲活動 ジビエ処理技術向上にかかる研修 フェア等による販売促進活動			・被害防止対策にかかる技術指導者育成研修「えつけSTOP！実践塾」を全3回で開催。鳥獣被害対策を担当する市町村職員や県出先機関職員延べ66名が参加(1回目:18名、2回目:29名、3回目:19名)。実践塾参加者のうち、28名を「えつけばやめなん隊」に認定。 ・広域捕獲体制の整備 広域的な体制整備につなげるため、農地GISを活用し4市町について過年度に設置した防護柵の見える化を実施した。また、芦北地域においてシカの生息状況調査を実施し、今後の推進体制の整備に繋げた。 ・フェア等による販売促進活動 「くまもとジビエ料理フェア2021」を開催し、県内レストラン等62店舗が参加。令和3年度に実施した同フェアと比較すると、1.5倍の売上となった。コロナ禍前の令和元年度と比較しても、2倍近くを売り上げ、過去2番目の売り上げとなった。							事業効果については一定の成果はあげられていると考える。 熊本県では、有害捕獲、被害防除、生息環境管理等の取組みを総合的に実施。積極的に農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策に取り組んでいる。また、鳥獣から守れる田畑、集落をつくる取組みを「えつけをやめる取組み」として推進している。 県内には被害を止めた成功事例や若手農家の活動組織が発足する等、新たな取組も生まれており、その新たな取組が県内外に波及しつつある。 本県では、重要な課題に「担い手育成」を位置づけ、有害捕獲、被害防除ともに現地研修を含めた実践的な研修を実施し、現場で活躍する人材育成に取り組んでいる。 特に、農林水産省が主催する令和4年度鳥獣対策優良活動表彰で、被害防除部門で天草市の方原集落が、捕獲鳥獣利活用部門で宇城市の株式会社I/OPが農村振興局長賞を受賞し評価を受けている。 今後、県内の優良事例を横展開し波及する取組みを進めて参りたい。	鳥獣対策といえれば非常に広範囲であり明確な方針を定めることは難しい。熊本県では5年ほど前から「えつけSTOP!」を合言葉に掲げ、住民や農家が野生動物が好む環境を作らないための自助努力の必要性を啓蒙しているのは素晴らしいと思う。 被害を受けると「野生動物のせい、...」と多くの人が考えるが、まず自分達が寄せ付けていないか、を産学の中で年配の方にも理解できるよう動画なども作成し分かりやすく示している。 また「えつけSTOP！実践塾」では市町村の担当者などが鳥獣対策を実践的に学べる場が設けられており、各地域への指導に生かされている。 同塾の講師を務めた農家ハンターは苦労しながら、農家と鳥獣対策を両立しているからこそ、地域住民などにも理解、共感されやすいのではないと思う。県では鳥獣被害防止対策強化月間を設定しており、ラジオで県民や農家の方に広報を行っているため、発信方法を工夫しながら、今後も引き続き継続してもらいたい。 また新たな脅威としてイノシシに注ぐ農作物被害を近年出すようになったカモ対策についても、県が率先して情報収集や対策に乗り出している。全国に先駆け効果的な対策作りに私たちも力を合わせていきたい。 いずれにしても鳥獣対策にウルトラCはないし、これからは野生動物との関わりがなくなることはない。だからこそ今足りないのは「地域と畑を守る」住民であり、その担い手作りを目標に掲げる熊本県の取組みがさらに広がることを期待したい。 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 稲葉 達也			

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

事業実施主体名 (協議会名)	対象 地域	実施 年度	対象 鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			

5 都道府県による総合的評価

今回の評価報告対象の29市町村のうち19市町村において、被害防止計画目標の達成率の目標を達成しており、事業効果については一定の成果はあげられていると考える。しかし、対策が不十分であった地区へ被害の拡大が見られたり、これまで報告が少なかった鳥獣による被害が報告されたりと、より一層の対策強化が求められる。本県では、以前から捕獲・防除・生息環境管理に係るソフト・ハードの取り組みを総合的に実施していくとともに、積極的に農業者以外の地域住民を含めた地域ぐるみの被害対策に取り組んでいる。また、住民自らが鳥獣から守れる田畑、集落づくりを行う、「えづけをやめる」取り組みとして推進しているところ。県独自の取り組みとして、モデル地区支援や各種研修の開催等を実施し、全国優良活動表彰で賞を受賞する集落も出てきている状況。平成29年度から本交付金を活用し、通年カリキュラムの体系的な人材育成研修等を開催し、現場で活躍できる人材の育成により一層注力している。これらの取り組みを通じ、県下市町村にも「えづけをやめる」という考えが浸透し、モデル地区を中心に被害を止めた成功事例が県内各地にでき、大きな成果を挙げつつある。また、モデル地区を先進事例とし、地域間で鳥獣被害対策が波及し始めているところ。鳥獣被害防止総合対策交付金を有効に活用し、被害軽減につなげるためにも、今後ともより一層県、市町村、地域が連携し、地域ぐるみの総合的な対策を実施していく。